

【教科】 【科目】	理科【化学基礎】	1 年	2 単位	教科書	高等学校化学基礎 (第一学習社)	副教材等	ネオバルノート化学基礎 (第一学習社)	履修対象・ 使用教室 等	1学年総合
教科・ 科目の 目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。								
評価 の 観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。			物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。			物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもち振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
評価 方法	* 単元などの授業内容のまとまりごとに「評価の観点」に基づいた観点別評価を行い、【A:「十分満足できる」状況 B:「概ね満足できる」状況 C:「努力を要する」状況】とする。 * 単元などの観点別評価に基づいて、学習全体の総合的な評価を行ったものを「5段階の評価」とする。								
評価 資料・ 評価 比重 【100点換算】	評価資料等		予定回数・内容等		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	ミニテスト		25～30回（内容のまとまりごとに実施）		20		-		-
	単元テスト		6回（単元ごとに実施）		50		50		-
	課題		8回（ネオバルノートまたは配布プリントの取り組み状況）		-		-		30
	実験レポート		4回（実験・実習に取り組み、実験レポートを提出）		30		50		20
	ロイロノート提出		6回（単元ごとに振り返りを記入）		-		-		50
	【観点別配分％】		（3観点の比重を％で示しています）						
月進行 【計画】	【単元名】 学習項目名		配当 時間 【計画】	学習内容・目標（到達点） など		主な評価資料		評価の重み付け【◎○】	
4	【第1章 第1節 物質の成分と構成元素】 1 物質の成分 2 物質の構成元素 3 物質の三態と熱運動		6	・物質を構成する元素は118種類あることを知る。 ・混合物を分離・精製する操作について知る。 ・元素を確認する方法を知る。 ・硫黄、炭素、リン、酸素の同素体の性質を理解する。 ・物質の三態が粒子の熱運動の違いであることを理解する。		小テスト		○	
						単元テスト		○	○
						課題			○
						実験レポート		○	○
						ロイロノート提出			○
5	【第1章 第2節 原子の構造と元素の周期表】 1 原子の構造 2 イオン 3 元素の相互関係		4	・原子の構造について理解する。 ・電子配置は原子番号順に規則正しく変化することを知る。 ・電子配置の安定性の観点からイオンの生成を理解する。 ・元素の周期表における同族元素の名称を知る。 ・元素の周期表と関連づけて周期律を理解する。		小テスト		○	
						単元テスト		○	○
						課題			○
						リフレクションシート			○
						ロイロノート提出			○
6	【第1章 第3節 物質と化学結合】 1 元素の周期表と化学結合 2 イオン結合とイオン結晶 3 共通結合と分子 4 極性 5 分子間力と分子結晶 6 共有結合の結晶 7 金属結合と金属結晶 8 結晶の比較		10	・イオンからなる物質の組成式について理解する。 ・共有結合により形成された分子の電子式、構造式について理解する。 ・電気陰性度と分子の極性について理解する。 ・分子結晶と共有結合の結晶について、その性質を理解する。 ・金属結晶の性質が自由電子によるものであることを知る。 ・4種類の結晶の違いについて理解する。		小テスト		○	
						単元テスト		○	
						課題			○
						リフレクションシート			○
						ロイロノート提出			○
7 8 9	【第2章 第1節 物質量和化学反応式】 1 原子量・分子量と式量 2 物質量 3 溶解と濃度 4 化学変化と化学反応式 5 化学反応の量的関係 6 化学変化における諸法則		15	・有効数字の考えを用いて測定値を扱い、その計算法について理解する。 ・原子量を用いて分子量、式量を求められるようにする。 ・					